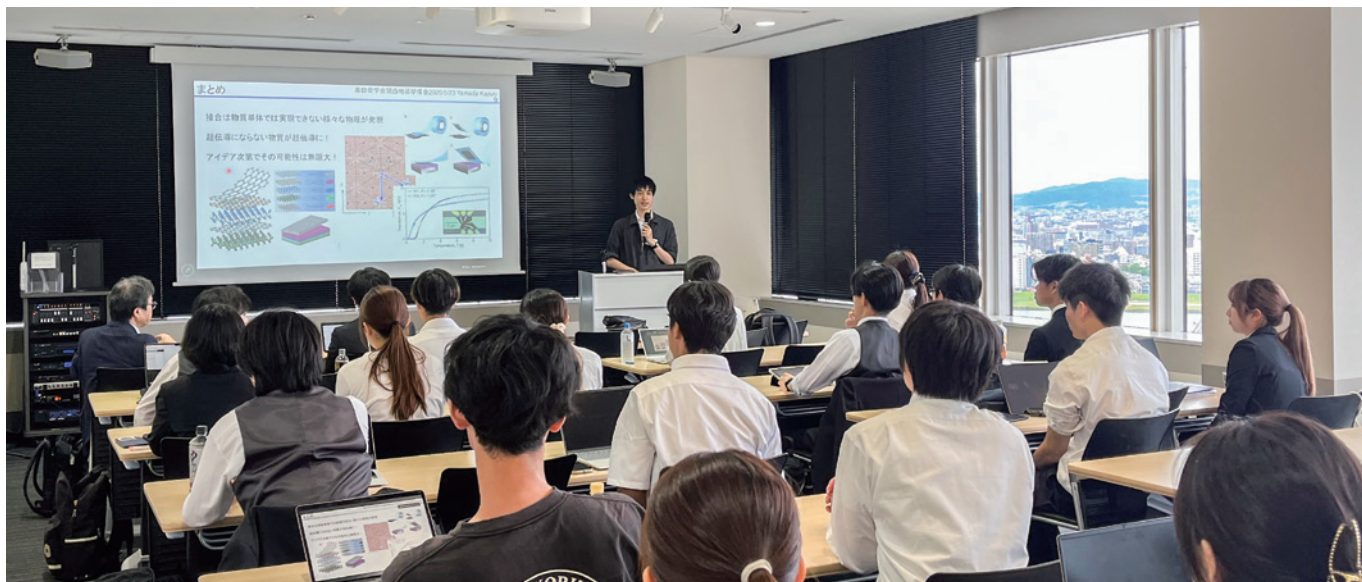


A circular seal with a stylized, symmetrical floral or leaf-like pattern in a light blue color, serving as a background for the text.

公益財団法人
黒田奨学会



| 研修発表会・情報交換会の開催



当会では、毎年、現役奨学生や各分野で活躍する先輩方を招き、研修発表会・情報交換会を開催しています。研修発表会は九州・関西・関東地区で年に数回実施され、奨学生が自身の研究成果や活動内容を発表します。

発表や質疑応答を通して、多様な考え方や新しい視点に触れながら、自己表現力やコミュニケーション能力を高めることができます。また、自身の研究や専門分野への理解を深めるとともに、将来の進路やキャリアについて考える貴重な機会にもなっています。

さらに、他の奨学生やさまざまな分野で活躍する先輩方との交流を通して、人とのつながりや視野を



広げることができます。発表会後には情報交換会も開催され、リラックスした雰囲気の中で交流を深めることができます。同じ志を持つ仲間や先輩方との出会いは、今後の学生生活や将来に向けた大きな財産となります。



数回の研修発表会や海外留学支援など、
動を行っています。

| 海外留学・海外研修等への支援



当会では、世界を舞台に活躍できる“国際人”の育成を目指し、奨学生の海外留学や海外研修を積極的に支援しています。

海外では、さまざまな国や文化を持つ人々と交流する機会が広がります。異文化に触れることで、語学力だけでなく、多様な価値観を理解する力や国際的な視野を身につけることができます。

さらに、海外の大学や研究機関、国際学会などで学ぶことで、世界最先端の研究や新しい考え方に触れ、自身の研究や将来の可能性を大きく広げることができます。こうした経験を通して築かれる国際的なネットワークは、将来の共同研究やグローバルな活躍にもつながります。



海外での挑戦と経験は、将来、世界で活躍する“国際人”として成長するための大きな力となります。

当会は、奨学生一人ひとりが世界へ挑戦する意欲を後押しし、その経験を将来の社会貢献へとつなげられるよう支援しています。



卒業生インタビュー

様々な分野で社会貢献に努めています

異なる文化に向き合い 国と国をつなぐ外交の最前線へ

外務省で、韓国に関する外交政策を担当する課に所属しています。原点は高校時代に聞いた外務省職員の講演でした。大学では日米学生会議やオーストラリア留学を通じて異なる文化や価値観に触れました。

現在は社会人2年目ながら首脳会談等を事務方の一員として支える機会もあり、国と国をつなぐ最前線に携われることにやりがいを感じています。私見ですが外交といえども最後は人と人との関係。黒田奨学会の

発表会で専門の異なる奨学生に刺激を受けた経験も、教養や広い視野、他者への関心を育む土台になりました。



外務省
渡邊 蒼生
(修猷館高等学校・東京大学法学部卒)

教育学部で培った視点を生かし 市民を支える力になりたい

もともとは先生を目指し、教育学部で学びました。けれど大学生活を通じて、自分が人の役に立てる道は教育の現場だけではないと考えるようになりました。

現在は福岡市役所のこども未来局で、ひとり親家庭の福祉行政に関わる仕事を担当。教育学部で培った「相手の見方、考え方に立つ」姿勢は、いまの仕事でも大切な指針になっています。黒田奨学会では志を持って学ぶ奨学生との交流や、研究に触れる中で、自らの意識を高めるとともに、学部の外へ視野を広げる大切さを学びました。その経験が、人の役に立ちたいという思いを、社会に貢献する意識へと深めてくれました。

福岡市役所 こども未来局
こども健やか部こども見守り支援課
川邊 遊
(中村学園女子高等学校・佐賀大学教育学部卒)



橋梁の劣化をデータで読み解き 持続可能な維持管理に貢献したい

山口大学で、橋梁など社会基盤の維持管理にAIを生かす研究と教育に携わっています。橋の劣化を部材や損傷の位置関係まで捉えて予測し、安全で効率的なインフラ管理につなげることが目標です。

東日本大震災をきっかけに社会基盤に関心を持ち、大学では土木を学びました。さらに情報技術への興味も重なり、現在の研究へとつながっています。黒田奨学会には学部から博士課程まで九年間支援いただき、その後押しがあったからこそ博士進学を決断できま

した。今後も現場に触れながら、学生指導にも向き合い、公共性の高い研究を深めていきたいと考えています。



山口大学工学部 助教
稲富 翔伍
(福岡高等学校・東京大学大学院工学系研究科修了)

地質学で培った探究心を力に AI時代の素材開発に挑みたい

京都大学大学院では、南極の変成岩に含まれるルチルという鉱物を分析し、岩石が経験した温度や圧力から地球の歴史を読み解く研究に打ち込みました。現在はJX金属で、化合物半導体材料の開発を担当。AIの普及で重要性を増すデータセンターの効率的な運用を支える材料づくりに携わっています。

高校時代は数学を学ぶつもりでしたが、大学で壁にぶつかり、進む道に迷った時期もあります。黒田奨学会では、理事の方々に不安を受け止めていただき、地質学へ進む後押しをもらいました。奨学金で研究に集中でき、地元を支えられている実感も大きな力になりました。

JX金属株式会社
権藤 洸人
(筑紫丘高等学校・京都大学大学院理学研究科修了)



奨学金制度について（令和9年度版）

募集対象者

下記の条件を満たすこと

- 旧黒田藩内に所在する高等学校の3年次に在籍し、日本の大学へ入学を志望する方（過年度卒業1年目まで可）
- 福岡県内に所在する高等専門学校5年次に在籍し、日本の大学へ編入学を志望する方（過年度卒業1年目まで可）
 - 現住所又は保護者住所が旧黒田藩内であること
 - 旧黒田藩内の小学校又は中学校を卒業していること
- 優れた人格と学力を備え、将来、社会の発展に貢献する意欲を有する方

※日本の大学とは文部科学省所管の大学

応募条件

下記の条件を全て満たすこと

- 在籍する高等学校長又は高等専門学校長の推薦を受けること
- 大学入学共通テストを受験すること（ただし、編入学志望の場合は免除）

給付内容

当会の規程に従って、以下の奨学金を給付します

- 基礎奨学金：月額6万円
- 特別支援奨学金
 - 居住地域による加算支給：2～5万円
 - 海外留学・海外研修参加・国際学会参加の場合、以下の支援奨学金制度あり

	支援内容
派遣型留学支援	基礎奨学金の外に1ヶ月あたり10万円以内の奨学金を支給する。 ^{※1}
非派遣型留学支援	基礎奨学金の外に1ヶ月あたり10万円以内の奨学金を支給する。 ^{※1} 休学して留学する場合は、基礎奨学金は支給しない。
海外研修参加	1回40万円以内（年度内1回のみ） ^{※1}
国際学会参加	1回40万円以内（年度内1回のみ） ^{※1}

※1 支援額は開催国・地域による

※そのほか、当会の奨学生で大学卒業後に大学院へ進学を希望する方は、大学院奨学生として奨学金給付を受けられる制度があります。

応募方法

1. 応募書類および添付資料

- 本人自筆の奨学金給付願書
- 高等学校長又は高等専門学校長の推薦調書
- 所得証明書として、一親等以内の親族の「令和8年度の所得・課税証明書」（市区町村発行）
また所得がない場合は「所得がないことの証明書」（市区町村発行）を添付してください。

※上記1)と2)の書類ファイルについては、黒田奨学会HPよりダウンロードして入手ください。

2. 書類提出方法

上記1)の書類は、それぞれPDFファイルに変換して、所属学校経由で、黒田奨学会HP専用フォームより提出してください。

3. 願書提出期間

令和9年1月22日（金）～1月31日（日）（事務局必着）

ご寄付のお願い

黒田奨学会は、旧筑前国の当主黒田家の育英制度に由来します。黒田家は明治維新直後に藩内から留学生を海外に派遣したのをはじめ、東京で修学する学生に寄宿舎の提供や奨学金の支援を行ってまいりました。大正4年に「黒田奨学会」を設立し、さらに昭和4年には財団法人化して奨学制度を充実させ今日に至っております。

当会の奨学金の原資は、黒田家から寄贈された基金の運用益および当会の理念に共感いただいた皆様のご寄付により成り立っております。黒田奨学会出身の郷土の若者達が将来、世界や日本の社会で広く活躍するための投資とお考え頂き、ご協力を賜りますようお願いいたします。

1 ご寄付の方法

銀行振込の場合

銀行名	西日本シティ銀行 赤坂門支店
預金種別	普通
口座番号	3154493
口座名義	公益財団法人黒田奨学会

※1 西日本シティ銀行の本支店窓口での振込手数料は無料です。

※2 ATMまたはIBから振込いただく場合は、恐れ入りますが振込手数料をご負担ください。

※領収書および寄付金受領証明書をご希望の方は、お電話又はメールでお知らせください。

郵便払込の場合

郵便局の窓口で、「払込取扱票」と「振替払込請求書兼受領証」に必要事項を記入してお振込みいただく場合は、以下の内容をご記入願います。

口座番号	01740-5-129327	加入者名	公益財団法人黒田奨学会
金額	ご寄付頂きます金額をご記入ください	通信欄	奨学資金として寄付する旨をご記入ください
ご依頼人欄	お名前、郵便番号、住所、電話番号をご記入ください		

※恐れ入りますが払込手数料をご負担ください。

2 遺贈寄付もお受けいたします。

遺贈は、今ではなく将来亡くなった後に残った財産の一部または全部を、遺言書によって、特定の個人や公益団体に寄付する制度です。

3 公益法人に対するご寄付については税額控除等、税法上の優遇措置の対象となります。

当会は税額控除認定法人です。寄付金につきまして、税額控除の場合は所得税、住民税合わせて最大で50%還付されます。なお、ご寄付いただく方の所得により異なることがありますので、詳細は税務署にお問い合わせください。

※税額控除等には確定申告が必要です。※住民税の税額控除等はお住まいの自治体によって異なります。

お問い合わせ

公益財団法人 黒田奨学会事務局

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-11 富士ビル赤坂7F

MAIL office@kuroda-s.or.jp HP <https://www.kuroda-s.com/>

TEL 092-712-0597 受付時間：月～金曜日 午前10時～17時 ※年末年始・祝日・当財団休日を除く

